



届ける安心 広がる笑顔 生まれる信頼 JAあいら

あいら

▶トピックス…成育順調、例年より10日早く
一番茶を収穫 他



2013

6

June

No.254



*詳しくは
15ページに掲載

成育順調、例年より10日早く一番茶を収穫

「お茶さんまい」

一番茶の収穫を前に溝辺町の「茶魂の碑」前で4月4日、茶安全祈願祭があり、生産者やJAなど関係者約1200人が出席し、神事が執り行われ、お茶の豊作や販売高の好調を願いました。

また、安全祈願祭が行われた6日後の4月10日から、一番茶の摘み取りが始まりました。一番茶収穫の3日ほど前からの冷えこみが心配されたものの、2月から3月にかけて温暖な気候が続ぎ、茶の生育が順調だったことから例年より10日ほど早く収穫を迎えることができました。

霧島市は、全国お茶まつりにおいて3年連続で産地賞を受賞、2年連続で



一番茶の収穫を前に安全祈願する榎脇建治組長



一番茶を摘採機で収穫する茶業農家

農林水産大臣賞を受賞しており、ブランド化の促進に拍車をかけようと、生産者は一番茶の収穫に期待を寄せています。

平成25年度は、管内で約18億6千万円の取扱高を見込んでいます。

霧島市茶業振興会の蔵園和寛会長は「今年は、天候に恵まれ、良いお茶ができそうです。霧島茶のブランド化が着々と進みつつある中、弾みをつける意味でも全国お茶まつりで4年連続の産地賞を狙いたい」と話していました。第67回全国お茶まつりは京都府宇治市での開催が予定されています。

かごしま茶で四季を満喫

「かごしま茶」で四季折々の味を楽しんでもらおうと、東京のホテルが「かごしま茶」を使った企画販売を行い、宿泊客や来店客の人気を集めました。

「かごしま茶」をメインとして企画販売したのは、東京都港区のセレスティンホテル内にあるレイオンヴェールカフェで、テーマは「かごしま茶」産地を巡る旅「霧島茶茶セット」さくらで、鹿児島県や県経済連などと共同企画したものです。

今季、第1弾となる春の季節のお茶には、当ホテルのスタッフが現地で厳選した霧島茶「おくみどり」を使用。お茶受けとして、鹿児島島の明石屋菓子店の桜の花の和菓子添えを添えることで春を表現しています。また、急須や湯飲みにも白薩摩焼を使うなど、とことん鹿児島にこだわりました。

当ホテルの後藤可奈アシスタントマネージャーは「霧島茶は春にふさわしく口あたりもまろやか。霧島茶と和菓子の相性も最高。煎目と二煎目で違う味わいが特徴のお茶で、お客様にも好評です」と話していました。

当ホテルでの春のセット販売は4月30日で販売を終了しましたが、今後も四季ごとにかごしま茶」を提供していく予定との事です。

上京の際は、ぜひお立ち寄りください。



春限定で販売された「霧島茶茶セット」

乗降客を新茶でももてなし



関係者によるテープカットで「百円茶屋」がオープンしました。

ゴールデンウィーク初日となる4月27日、乗降客にかごしま茶のおいしさを味わってもらおうと、溝辺町の鹿児島空港ロビーで新茶キャンペーンが行われました。キャンペーンは鹿児島県茶業会議所が、かごしま茶の知名度アップと販路拡大を図ろうと毎年、新茶の時期に合わせてゴールデンウィークに行っているものです。開会式には、国土交通省大阪航空局やJAあいらなど、関係者約20人が出席しました。

鹿児島県茶業会議所の永峯更二専務理事が「今年は例年より1週間早く摘み採りができました。安心安全で日本一早いお茶を味わってください」と挨拶したのに続き、新茶PRレディから国土交通省大阪航空局の林一則空港長に新茶が手渡されました。「百円茶屋」がオープンした1階ロビーでは、乗降客が新茶の味と香りを楽しんでいました。

鹿児島県茶業会議所によると、平成25年度の生産計画は、昨年並みの2万5000ト(8700担)を見込んでいます。

